

孫達と爺々のオリエンテーリング NO31

渡辺 幸 (M13米沢市住) ・ 東野基生 (M13米沢市住) ・ 武石雄市 (M69東根市住)

スキーOが取り持つ縁で交流したスウェーデンの少年と国際文通を始めた。若くして逝った米本君の追悼大会と2本、彼の想いを継承しよう。

絵(コミック)が得意?

幸 「爺々、トニーから手紙届いたよ」
 爺々 「トニーって?」
 幸 「ほら、スウェーデンで手紙書く約束したトニーだよ」
 爺々 「え!!あのトニーが手紙くれたの?」
 幸 「うん、僕、半信半疑だったけど美和さんに頼んで書いてもらった住所がバッチリだったね」
 爺々 「大会会場ではメモ紙もなくて何かレシートの裏紙みたいな紙に、住所も行を分割して書いていたね、美和さんも『判るかしら?』と言ったので、爺々は届かないかも知れないと思ってたんだよ」
 幸 「トニーは約束守ったね」
 爺々 「どれどれ、英語のようだけど誰かに訳してもらった?」

幸 「お父さんに訳してもらったよ。トニーのお母さんはカナダ人だから英語も出来るんだって」
 爺々 「そう言ってたね、トニーは漫画チックな絵が得意のようだね」
 幸 「手紙をお父さんに訳してもらって意味がわかったから僕も返事を書いて送ったんだ。そしたらすぐ又絵が入った手紙が来たよ」
 爺々 「それはよかったね、どれどれ、剣を持った少年を描いているが、スウェーデンで人気のヒーローかな? 爺々にスウェーデンの地図があるからトニーの住所Dara-Jarnaがスウェーデンのどの地方なのか調べてみたら?」

早速、地図を広げた。見せたのは、スカンジナビア3国とデンマーク、それにバルト海沿岸が入っている縮尺1:1,500,000道路地図だ。

幸 「あった!Jarnaだ!僕たちが居たMoraから74kmだよ。今度Moraに行くときは会えるかもしれないね」
 爺々 「Moraではスキーのパーサーレースがあるし、幸がスキーオリエンテーリングを続けていると行く

チャンスは多いかもしれないね。ま、当分は文通を重ねて友情を育みチャンスを待つ事だね。スキーやオリエンテーリングの事は書いてないの?」
 幸 「今度の手紙で聞いてみるよ」
 爺々 「爺々は1月になったらスキーオリエンテーリングマスターズ大会(Asarna)にレンタカーを借りるつもりだから、行く途中Jarnaに寄ってトニーと会ってもいいよ。そのときは何かお土産があったほうがいいね」
 幸 「うん、考えておくよ。爺々、この地図は北極のほうまで詳しく書いているんだね」
 爺々 「この地図は、高原(進)さんが東京の丸善から買ってきてくれてね、とっても便利なんだ。大凡の気温や降雨量それに日照時間も判るんだ。北欧に行くときは絶対手放せないよ」
 幸 「ふーん」
 爺々 「大きいけど紙もタイベックのような丈夫なものに印刷してるから大事に使って、幸に引き継ぐよ」
 幸 「ありがとう」
 爺々 「幸 トニーの2回目の手紙にはひらがなが書いてあるね。日本語の挨拶も書いてあるし、日本人と友達になって日本の事を勉強しているんだね。積極的に感心だね」
 幸 「僕はスウェーデン語の前に英語の勉強をしなきゃならないな」

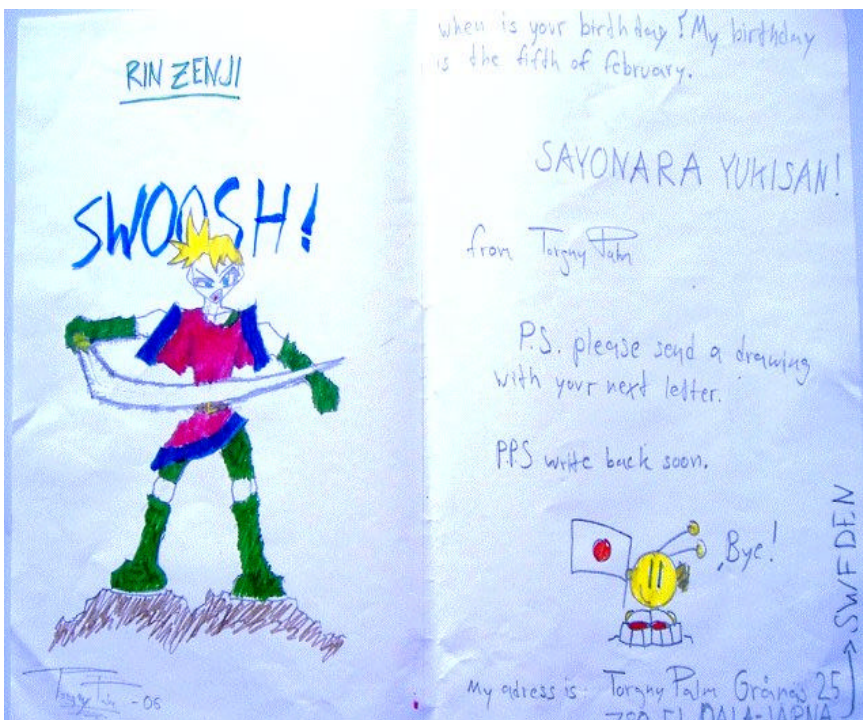
オリエンは靴から

オリエンテーリングシューズの重要性
 【東北大米本杯争奪戦】

7月2日、仙台市台原森林公園で東北大クラブの部内大会が開かれた。米本君のご両親も金沢から夜行バスで仙台入りした。息子が熱中したオリエンテーリングとはどんなものか、後輩の学生たちがカップまで作って「路憲」の名前を残してくれるという。

「米本カップ」は3人リレーで参加は部員以外にも開放だ。幸は親友の基生君を誘って、爺々の車で台原森林公園に向った。

大井君と小林恭君が準備していた。



トニーから来た手紙と絵の一部。日の丸まで書いてある。

爺々「生憎の雨だね。米本君は生前も雨男呼ばわりされていたけど、涙雨でもなく、無情の雨でもない企画してくれた大井君に対して感謝する感涙の雨かもしれないね」

基生「この雨でもやるんですか？」

爺々「そうだよ。リレーだから途中でいやになっても外のメンバーに申し訳ないから止める訳にいかないよ。二人で走順を決めなさい」

幸「爺々が走らないから僕が1走・3走をする事になったよ」

爺々「この雨では基生君の靴が滑りやすいから、幸が頑張って2回走るほうがいいと思うね」

基生「オリエンテーリング用の靴は何処で売ってるんですか」

爺々「靴屋さんでは売っていないので札幌の山田商会か船橋のスエットショップそれに神戸の芝さんから購入するしか方法がないんだ」

幸「僕も前まで履いていた靴が小さくなっておばあさんの靴を履いているんだ」

爺々「二人とも中学生になったら急にサイズが大きくなったので参ったよ。どこかの大きな大会には販売に来てるだろうからそれまで我慢だね」

基生「早く靴を買って、雨のときも追いつき走りたいなー」

リレーの結果は、米本君が草葉の陰で応援したのか二人の中学1年組が大学新人組を見事に打ち負かした

等高線を読む少年

【Love '99 米本路憲追悼二日間大会】

8月5-6日、栃木県塩谷町自然休養村センター。参加者は200名を越えた。朝から真夏の太陽がじりじりと暑い1日目。

爺々「今日は年齢別のクラスがないので君達は二人ともミドルレースにエントリーしておいたよ」

幸「モッチー、皆、大人だし気楽に行こうぜ！」

基生「ライバルは幸か？幸のおばあさんは何クラスなの？」

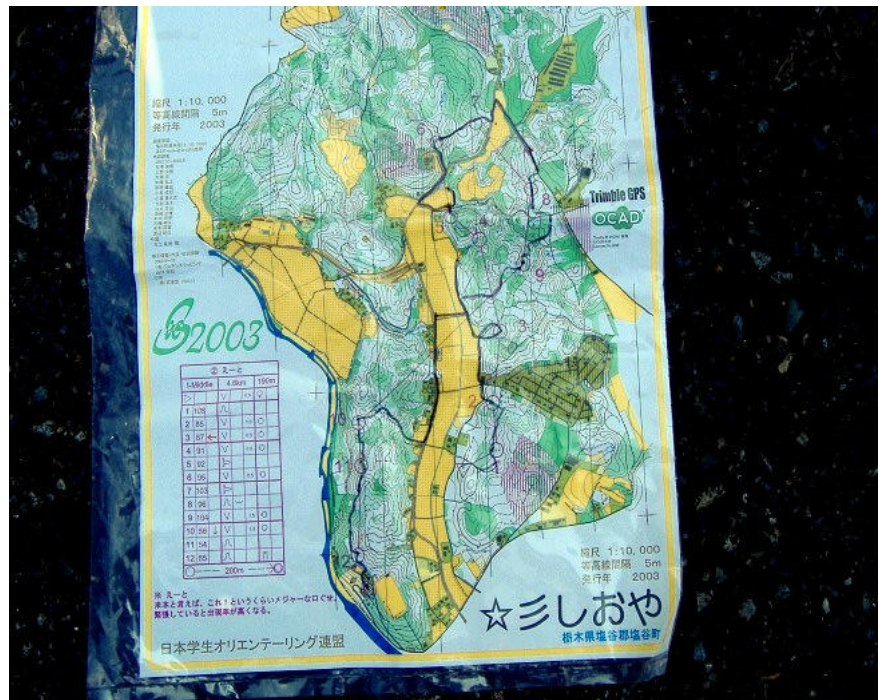
爺々「おばあさんは大会に出るのが数年ぶりなので、ゆっくり回れるようにBクラスにしたんだ」

幸「ミドルに瑞希君も出てるけど高校生だしライバルには程遠いしね」

爺々「兎に角、暑いから水分をたっぷりとって行ってらっしゃーい」

幸「あれ？爺々は出ないの？」

爺々「出るよ！爺々も暑いのが苦手だ



からショートにしたんだ」

ゴールはショートクラスの爺々が少しだけ早かった。美和さんに続いて幸がゴール。スキーOでおなじみの内山、柴田、美和、幸の4人は張り合っていたらしい

幸「爺々、モッチーは？」

爺々「爺々も今ゴールしたばかりだし見ていないよ。柴田君が調子よかったみたいだよ」

幸「おばあさんも未だだね」

爺々「幸、順調だったの？前段の尾根(92)ポストで1分後スタートの幸が爺々より早かったね」

幸「今日は、1箇所を除いてほぼパッチリかな」

爺々「ルートチョイス書いてよ」

幸「尾根ポストのあとに道に出て田んぼの脇を近道したんだけど、抜けれなくてあそこが失敗だったな」

爺々「田んぼに小道の入っているのが見えるけど？でも、すごいな幸、このルートなら幸より遅い大人がかなりいると思うよ。ミドルクラスは何人かな」

幸「あ！モッチーが帰ってきたよ」

基生「のど乾いたー、水飲んでえ！」

爺々「基生君のルートは？」

幸のルートチョイスを見て

基生「これ、幸のルート？」

幸「そうだよ、走ったなあ今日は」

基生「幸に聞くけどさ、幸は山の中で何に注意して走ってるの？」

幸「注意しているのは小道とか走ってるときに等高線を数えてるよ」

基生「え！等高線かー、難しいなー」

爺々「モッチーは何に注意しているの？」

基生「僕は、ポストに行ったらパンチしたら、近くに道がないか地図を見るんだ。それからその方向にコンパスを振って走るよ」

幸「パンチして地図を見て道がなくても等高線を見て、尾根とか沢なんか通れそうなら僕は行っちゃうよ」

基生「幸のルートを見ると、僕なら道を選ぶところでも真っ直ぐ進んでいるのがよくわかるね」

爺々「起伏のある森の中をコンパスを使って進む事や等高線を読んだり尾根筋を判断したりコンターリング究極の課題なんだ。幸はこれから走りに磨きを掛けて地図を読む力を生かすとJOCの代表が見えてくるね」

基生「僕たちオリエンテーリングをやりたいから大学は東北大に決めただんだ」

爺々「それで基生君のお母さんが爺々に山形大にもオリエンテーリング部を作れないかしら、と言ったんだね」

幸「僕、ミドルの速報で58人中の31位だって。中間だね」

爺々「さあ、明日のリレーは瑞希君と3人で合計年齢43歳は最年少だ。楽しみだなあ」

中学1年でオリエンテーリングに確かな歩みと希望を抱く少年に、米本君のご加護を祈願する爺々です
(武石雄市)